

今日は、9月9日 救急の日。

救急とは、急に大変なことが起こった時にそれを救うこと。

特に、急に病気になった人や怪我をした人に応急手当をすることです。

急に病気になってしまったり、大きな怪我をしたりして動けなくなってしまう場合や、早く病院に行かないと大変なことになってしまいそうな時には、救急車を呼びます。救急車を呼ぶ時には、「119」番に電話をかけます。

でも、ここで大切なことが1つあります。救急車は、本当に困って大変な時にしか呼んではいけません。

どうしてかというと、ちょっとした怪我しかしていないのに救急車を呼んだり、自分で病院に行けるのに救急車を呼んだりしていると、他に本当に困っている人が救急車を呼んだ時に、救急車がすぐに来てもらえなくて困ってしまうからです。だから、絶対にイタズラ電話はしてはいけません。これは、みんなが守らなければいけない約束です。

さて、今から14年前の2006年（平成18年）9月9日 土曜日のことでした。

私たちの身近にある宇地泊川で川遊び・川探検をしていた大謝名小の生徒が、突然の雨に遭い、橋の下で雨宿りをしていました。すると、急激に水かさが増して鉄砲水という恐ろしいほどに激しい勢いの流れが起こり、そのうち6年生の男の子1名が流され命を失うという悲しい事故がありました。

私たちは、尊い命が失われた悲しみを想像しながらも忘れることなく、二度と大切な命を失うことのないよう、大謝名小学校では、9月9日の「安全を考える日」この時間を創りました。

そこで、みんなで黙祷を捧げたいと思います。

座ったまま静かに目を閉じ、「命を落としたお友達が安らかに眠れるよう祈り」、「二度と悲しい事故に遭わないという誓い」をしましょう。

それでは、

黙 祷

水難事故という悲しい事故を繰り返さないために、

私たちにできることは

この辛く悲しい事故を 時々思い出して、

命の大切さを しっかり考えて

自分の命を守る行動が ちゃんとできるようにすること です。

川辺にいるとき、

- 上流（水が流れてくる方）の空に黒い雲が見えたら
- 雷が聞こえたら
- 雨が降り始めたら
- 落ち葉や流木、泥水やゴミが流れてきたら

川の水が急に増えるサインです。すぐに川から離れ高いところに避難しましょう。

そして、何よりも「自分は大丈夫！」ではなく、「危ないよ！」「そこで遊んではいけないよ！」といった注意をしっかりと受け止めることが大切です。

私たち一人一人、かけがえのない命を守るために、今日の「大謝名小学校安全を考える日」を大切にしていきましょう。